



### 「竜馬がゆく」

司馬遼太郎 作  
文春文庫刊

今年、大河ドラマの主人公としてブームを巻き起こしている坂本竜馬。その激動の生涯を描いた本は多数ありますが、特にこの作品は竜馬の魅力が余すところなく描かれています。竜馬の進歩的な発想力、前向きな行動力に触発されることは多いと思います。

松田中学校  
三浦 良二 校長先生

### 「不動心」 松井秀喜 作 新潮新書刊

左手首骨折という選手生命を脅かす大怪我から、見事な復活を遂げた松井秀喜。その陰には、マイナスをプラスに変える独自の思考法がありました。戦い続けるなかで身につけた松井流「心の構え」。作者は「野球人」としてだけでなく、「人」として魅力のある選手だと改めて思いました。



## 夏休みに読みたい!!

### 校長先生・園長先生がすすめる本



寄中学校  
井上 義博 校長先生

### 「悩む力」 姜 尚中 作 集英社刊

中学生には少し難しいかもしれませんが、自分に自信をもてない思春期の人たちの一つの道しるべになるのではないのでしょうか。

自我の目覚めが早期に出現している現代、中学生が読んでもよい本だと思います。



### 「バカなおとなにならない脳」

養老 孟司 作 理論書刊

図書室で題名に興味をもち、読み始めました。みんな同じように伸びる力をもっているの、若いうちにたくさん脳を使おう。おとなが読んでもおもしろいですよ。



松田小学校  
野中 明 校長先生

### 「コンビニ弁当16万キロの旅 食べものが世界を変えている」

コンビニ弁当探偵団  
高橋由為子・千葉保 作  
太郎次郎社 エディタス刊



今やわたしたちの生活になくはならなくなったコンビニ。でも、「牛丼弁当」1個を作るためには、2リットルのペットボトル1000本もの水が必要だそうです。身近なコンビニ弁当を通して食料輸入や環境問題、ゴミ問題などをイラストを交えてわかりやすく紹介しています。

「便利さのかかえる光」と「大きな問題として存在する影」が見えてくる一冊です。いつも使っているコンビニの別の顔が見てきます。

### 「タイムチケット」 藤江 じゅん 作 福音館書店刊



切符コレクターのマサオは拾ったタイムチケット（旅行時間への招待状）で昭和44年4月4日へ。そこで出会ったのは、小さい頃のお父さん。一緒に剣道を習ったり、猫を助けたり。たった4時間のタイムスリップがマサオの生活を変えていきます。

スリリングなSF仕立てのストーリーの中に、男の子の純粋な気持ちがさわやかに描かれ、「家族」「仕事」「友情」といったテーマが展開していきます。



### 「泣いた赤鬼」

浜田 廣介 作 星雲社刊

「山の中に住む赤鬼が人間と仲良くなるために」と、青鬼が力を貸してくれました。

赤鬼は人間と仲良くなれましたが、青鬼とはもう会えなくなりました。赤鬼と青鬼の友情、そしてやさしい心を感じます。



寄小学校  
沼田 芳宏 校長先生

### 「正伝 野口英世」 北 篤 作 毎日新聞社刊

野口英世は生涯をかけて世界の医学につくした人です。幼いときの大やけどで体が不自由でしたが、医者になりたいという目標をもって一生懸命勉強をしました。

勇気をもって目標に向かっていく姿がとってもすばらしいです。



### 「わすれられないおくりもの」

スーザン・バーレイ 作・絵 評論社刊



物知りで賢く、みんなからとても慕われ、頼りにされていたアナグマが、年をとって冬の初めに死にました。

かけがえのない友を失ったみんなは、どう悲しみを乗り越えていくのでしょうか。また、アナグマが、みんなに残していったものとは……。

友達の素晴らしさ、生きるための知恵や工夫を伝え合っていくことの大切さ、ひいては人間の生き方をも静かに語り、心にしみる感動を残す絵本です。夏休みに、この本をぜひ親子で読んでみてください。



第一・第二幼稚園  
鍵和田 貴司 園長先生

### 「はじめてのおつかい」

作 筒井 頼子 絵 林 明子 福音館書店刊

はじめて、お母さんにおつかいを頼まれたみいちゃん。…そんな小さな冒険である、おつかい



寄幼稚園  
武松 泉 園長先生

いというものを細やかな描写で、教えてくれる絵本です。初めてのおつかい、覚えていますか。手のひらに汗をにぎって、…私も子どもが5歳のときにはじめてのおつかいを体験させました。帰って来るまで、ドキドキして待っていたことを思い出しました。

時をこえて読みつがれている絵本です。夏休みにこの一冊を親子で楽しんでみてはいかがでしょうか。